



共同通信



2008年5月17日 141(351号)

日本基督教団 西宮共同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22
0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email:koudou@gamma.ocn.ne.jp
<http://www.koudou.jp/> 振替01170-3-4901
ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、
笑い 泣き 歯ぎしりをした 自分の人生を語ってほしい、
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

To tell the story 41 『たくさんの卒業とスタート』

今春の山地家。家族5人それぞれに卒業がありました。私と主人の卒業は、とっても個人的だったりするので、省略します。

我が家のこどもたち3人は共同幼稚園卒です。3歳違いばかりなので当たり前ですが、入れ替わり立ち替わりお世話になりました。今年長女(以前共同通信の地震の経験談で主人が“震災時、嫁は妊娠8ヶ月で...”と書かれた人です。)は小学校を卒業。「制服嫌い!」とか言いながらバレー部への本入部を楽しみに中学生しはじめました。

次女は小3で育成センター(学童)を卒業しました。放課後、家に友達を呼べるようになる日を指折り数えながら高

学年しています。

最後に今年は何と言っても長男大(15歳)の中学卒業と高校受験でした。そしてこの春より午前中は幼稚園でお手伝いにお邪魔して(園では年長さんたちに“先輩”とか呼んでもらっているらしい。先輩としてはいいかもしれないが園のお手伝いにはなっていない!)、夕方から“多部制、単位制”の高校へ通いはじめました。

何故 彼が幼稚園に居たり、朝から学校へ行かず3部(夕方から始まる部)に入る事にしたか?誰もが気になる事かと思えます(私と主人の卒業内容より!)。彼の事を知ってもらおうと思ったら、彼の出生から始まります...。というのも、1

病院の診断では“軽度の知的障害を伴う広汎性発達障害”とやらで今のところ“生まれつき”のものらしいからです。障害があろうがなかろうが「大は大」なのですが、とにかく彼は“美味しそう～？”“楽しそう”と思ったら、時も場所も考えず、誰の事もお構い無しになってしまいます(他にも困った行動はたくさんあります)。そのために幼稚園 小学校時代の友達とのトラブル等は書き出していたら本になってしまいそうな位あります。でも今では、あまり思い出したくないトラブルやその後の事(叱ったり、いっぱい話したり)が彼にも私たちにも成長する為には必要なものだったとやっと思えるようになりました。中学に入って何とかトラブルは減り(無くなったと言えないのがつらい(^_^;))幼稚園時代からの友達と同じクラブになり、朝から晩までクラブに夢中な日々でした。

大には もうひとつの大きな壁！があります。それは学習面(特に数的観念)です。

たくさんの練習で計算はできるようになっても、使い方が分かりません。(例えば、 $20 \div 5$ は4と答えられるのが、「20個のものを5人で分けたら一人分は何個？」と聞かれたときに25とか1

5と答えたりする事が度々ある)他にも「板書は読めてもノートには書き写せない。」等など…。こちら書き始めたらしりがない程あります。そんな彼でもゆっくり成長を続けてきました。

でも、あっという間に高校受験になりました。まだまだ基礎学習を続けさせたい! 何処か高校...と悩んでいた時 本当に! すごーいタイミングで今の高校の事を順子先生に教えていただき受験しました。その上 昼間の時間を園で手伝いに使っていただけるという事で、“社会勉強をしながら学習を続けられる”という、とても欲張りな高校生生活が始まりました。

今までも公同でのたくさんの方々との出会いやつながりに驚いたり、感心する事がたくさんありましたが、本当に今年ほど“人のつながり”を感じたことはありませんでした。卒業があった分、スタートしたてで不安もいっぱいですが、出会いもたくさんありました。

最後になりましたが、「山地 大と母の一恵です。どちらも園でお世話になっています。どうぞよろしく願いいたします。見かけたら声かけてみてください。」

(山地 一恵)

日本基督教団西宮公同教会集会案内

早天祈祷会	毎月1日午前6時30分から	於：西宮公同教会集会室
教会学校	毎週日曜日午前9時から	於：西宮公同教会礼拝堂
聖日礼拝	毎週日曜日午前10時45分から	於：西宮公同教会礼拝堂
聖書研究祈祷会	毎月第1・3水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
読書会	毎月第2・4水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
ゆっくり聖書を読む会	毎月第3火曜日午前10時から	於：西宮公同教会集会室

風よ吹たきさまの頬を吹き破るまで吹きまくれ！
雨よ降れ、滝となり、竜巻となり、そびえ立つ塔も、
風見の鷲も溺らせるまで降りかかれ！
稲妻よ一瞬にして雷神の心を伝える硫黄の火よ！
柏の大木をまっぴつに突き裂く雷のさきふれよ
わたしの髪を焼かせ！
…いのちを生み出す自然の母胎をたたきつづし、
愚知らずな人間を作り出す種を打ち砕け！

(シャークスピア リア王)

聖書が描く古代の人たちは、人が生きるにあたって欠くことのできない約束を神が示す戒の中に具現しました。そうして人が生きて行くにあたっての約束を短く神の戒としてまとめたのが十戒なのです。

「あなたの父と母を敬え、これは、あなたの神、主が賜る地で、あなたが長く生きるためである」(出エジプト記20章12節)。モーセという優れた指導者のもと、奴隷として生きたエジプトを脱出した人たちが辿り着いた土地で、日々の生活らしきものが始まってしまった時、お互いの間で起こってくる問題の処理に困り、その解決をモーセに求めます。モーセは、誠実にその処理に当たりますが、持ち込まれる問題は後を絶ちません。そんな時に「モーセのしゅうとエテロ」が「あなたのしていることは良くない。あなたも、あなたと一緒にいるこの民も、必ず疲れ果てるであろう。このことは、あなたに重すぎるから、ひとりですることができない。今

わたしの言うことを聞きなさい。わたしはあなたに助言する。どうか神があなたといますように」(出エジプト記18章17～19節)。結果、その“助言”に基づいて、紛争の処理の担当者を定め、モーセは“身軽”になりますが、紛争処理の根拠となるものを神に求めます。出エジプト記は、あれやこれやを駆使しながら、それらしいの経緯を経て、根拠にあたるものを示します。たとえば、それが紛争処理の根拠として威力を発揮する為には、“人の手に依らない”ということは重要です。しかし、人の手に依らなければ、そもそも示すことも難しくなります。この大問題を、モーセだけが神からそれを聞いて、人に示すということが出来る、注意深く構成された物語で示します。見え透いているといえなくはないのですが。モーセだけが神と出会って、それを聞くことになる経緯を「ただし、祭司たちと民とが、押し破って主のところに登ることのないようにしなさい。主が彼

らを打つことのないようにするために
ある。」と、問いただしたりしない理由
も主(神)の配慮であるとして伝えたり
するのです。モーセだけが神の戒めを
聞き、モーセだけが聞いた神の戒めを、
今度は民が自分たちの側から聞きたい
と熱望します。「彼はモーセに言った。
『あなたがわたしたちに語ってくださ
い。わたしたちは聞き従います。神がわ
たしたちに語られぬようにしてくださ
い。それでなければわたしたちは死ぬ
でしょう』」(出エジプト記20章19
節)。

そんな経緯があって、モーセだけが
神から聞いた誰も否定することのゆる
されない戒めが、出エジプト記20章
1～17節に示されている十戒です。
十戒は、十の戒めが項目としてずらっ
と並ぶのではなく、生きた神の生きた
言葉として語られ、それがモーセに
よって聞かれ、イスラエルの民に伝言
されます。いわゆる法律ではないので
すが、それが“共有”される経緯を余す
ところなく示され説得力を持ちます。
神に問い、神が語り、その神に聞いた言
葉として示されるのです。人の願いが
神に届いて、その願いに答えた神の意
志の結果が十戒なのです。紙に書かれ
た法・掟と十戒との違いです。

そのようにして神が語り、神に聞い
た十戒が、それを定めることになった
神との関係を示すことに、3つ分の戒
をあてることになりました。そこには、
4 神の熱い思いも書かれていたりします。

「あなたの神、主であるわたしは、ねた
む神であるから、わたしを憎むものは、
父の罪を子に報いて、三、四代に及ぼ
し、わたしを愛し、わたしの戒を守るも
のには、恵を施して、千代に至るであろ
う」(出エジプト記20章5節)。紙に書
いた法ではなくて、神の熱い意志が言
葉になったのが十戒です。

そして、4つ目が「あなたの父と母を
敬え・・・」です。ただ、父と母を敬え
ではなく、この戒が見つめているのは、
「あなたの神、主が賜る地で、あなたが
長く生きるため」です。この場合の“長
く生きる”は、遠い未来ではなく、今日
から明日へと一つ一つつなぎ、地に足
をつけて生きる希望を語っているよう
に読めます。同時に、こんなあたりまえ
のことが、戒として取り上げられなけ
ればならない事態に人は生きていた、
そんなことも背景になっているはずで
す。十戒は、当たり前のことを戒として
語らなければならない人という生きも
のの葛藤そのものであるのかもしれま
せん

「 こっけこっけこよがあけた～ 」

こっけこっけこよがあけた～で始まった2008年度入園式。新しい仲間を迎えての新しい朝が楽しみ！の毎日がスタートしました。

お母さんと離れての幼稚園生活。「おはよう」といって門をくぐっていく背中にとっても力が入っているのが分かります。「いっぱいあそんで、おせんべたべたらおかあさんがくるんだよね！」自分に言い聞かせるようにして、何度も聞いてくる子もいました。小さい体で、心で一生懸命にがんばっているのが伝わってきます。

“はじめのいっぼ”は、なわとび電車に乗って、津門川を元気に泳ぐ年長さんのこいのぼりを見に行くことでした。カラフルに彩られたこいのぼりに、思わず拍手～!!!「がんばれ～」なんて声も聞こえています。この日から、ぼっぼさんたちもお散歩が始まりました。「きょうもでんしゃみにいこう!」「なんできょうはおさんぽにいかなかったの?」すっかり“お散歩大好きぼっぼさんたち”の誕生です!電車に向かって「きょうもたのしいよ～」と友達と手をつないでとび跳ねている姿、たんぼぼを見つけて「たんぼぼ たんぼぼ むこうやまへとんでけ～」と大合唱している姿もみられました。ほんのわずかの時間でも同じ時間を過ごしているからこそ!その時間がつながってみんなで楽しむことができることに感激し、幸せに思うのでし

た。

ゴールデンウィークの連休が終わり、「まっけたよ～」とみんなを迎えてくれたのは、畑の赤いいちごたちです!ぼっぼさんたちも、さんぼさん・らったさんたちから「おみやげ!!」といちごをもらって食べたり、年長さんたちに手をつないでもらって、畑へ行き、いちご摘みを楽しんだりすることもできました。

2年前、ぼっぼ時代と一緒に過ごした年長さんたちとの畑までの時間は、「こんなに大きかった?」と思うくらいたくましく見えました。いろいろなものが気になって、あっちへ～こっちへ～と行こうとするぼっぼさんに、「はっしこあるかないとあぶないよ」と教えてあげていたり、泣いている子を盛り上げるために、いろいろと話しかけていたり。「ぼっぼさん、はしるのおそいからたいへんだった～」「ぼっぼさんってちいさいね～」自分たちだってそうだったのに～!と思わずつつこみを入れてしまいたくなるような会話に笑ってしまいます。それも、「えっ?あの子が?」と思うようなメンバーだったりするから、本当に感激でした。いつの間にかこんなにも大きくなっていったのですね!

その年長さんたち、こいのぼりが元気に泳いでいた津門川を下って行き、「つとがわがうみにかわったんだよ～!!!」と今津灯台まで行ってきたことを、大興奮で教えてくれました。ポケットには貝 5

殻！その貝殻を耳にあててくれて「ほらね、うみのおとがきこえるでしょ？」すてきなお土産をくれました。「私も行きたかった～！」とうらやましがる私に、「こんどおしえてあげる！ぽっぽさんたちといたらいいよ」しっかりと年長さんになっている子どもたちの姿がまぶしくも感じられました。

新しい年度がスタートして1ヶ月。この間だけでも、子どもたちは毎日を楽しみ、いろいろなことを経験して、どんどん顔つきも変わっていています。今日はどんな顔でやってくるだろうと、毎日

新しい朝を迎えることが本当に楽しみです！これって当たり前のように感じるけれど、本当はすごく幸せなことなのではないかな、そんなふうにも思います。この1年も、たくさんの方々に見守られながら、自然をいっぱいを感じながら、子どもたちとの毎日を過ごしていけることに感謝しています。

(上田 華子)

アコークロー通信(121)

沖縄での生活が11年目になりました。この通信、月1回で、1年で12回、10年で120回なのですが、4月11日 140(350号)が「アコークロー通信」120回でしたので、本来は3月発行のものが120回、どこかでワタクシ、サボったのでしょうか。

ともあれ、あっという間に連休です。4月、希望をもって新年度を迎え、バタバタしている間に毎日が過ぎている感じです。

あらためて、この「共同通信」になぜ文章を書いているか、自己紹介がてら。

えー、1977年4月から1998年3月まで兵庫を中心とした関西にいました。西宮公同教会はまだ古い建物

でしたが、そこでキリスト教の勉強会のようなものが開かれていてそれに参加したのです。生まれ育ちが東北の仙台で、学校を出てから初めての関西、見るもの聞くもの珍しいことだらけでした。菅澤先生は当時も今もあまり変わってはいないのですが、そう、30年以上も前の話です。今でも続けている「関西神学塾」で学び、いつしか私も「牧師」になったのですが、これはボクよりも信仰熱心だったものが、学生運動で学校を追われたり、そのことで自らの命を絶った友人たちの敵(かたき)討ちみたいなもので、ボクのようなものが牧師になっても、神様も怒りはすまいという思いです。1995年の震災、あの年は1月に震災があ

り、3月にオウム地下鉄サリン事件があり、9月に沖縄で米兵による少女暴行事件がありました。とてつもない国家の大きさと一人の人間が生きるこの意味を問われたような思いでした。それで兵庫の次の赴任地は沖縄だなあと思い、来たわけです。教会ではなくキリスト教系の社会福祉施設がその赴任先でした。沖縄で、最も厳しい状況の子供たちと向かい合う児童養護施設、そして「知的障がい者」と呼ばれる人々のための施設をもったところです。いつも書いていることなのですが、沖縄は何をやるにしても沖縄戦と米軍基地を引きずらざるを得ないのです。ですから社会福祉現場でも、沖縄戦や米軍基地についてはいくらかでも学べるのです。沖縄に来る人々の中には、沖縄でこそ闘争だ、闘っていると誤解されるようです。確かに沖縄は大変です。いつ米軍機が落ちてくるかわかりません。米兵によるレイプが今日ないともいえません。137万人の人口に対して、観光客は1年間約600万人、そして米兵、軍人軍属らとその家族は約5万人います。レンタカーで沖縄を走っていれば米兵の車両と交通事故だってあるでしょう。相手が悪い時、英語で文句がいえませんか。沖縄の警察と米軍のMP、たとえ基地の外でも米軍にも捜査権があり、米兵の身柄を持っていくことがあります。もし、沖縄の闘いに参加されるならいつでもどうぞお越してください。とはいえ、沖縄

に住む人間も生活しなければならないので毎日コブシを振り上げているわけにはいきません。毎日コブシを振り上げて生活できる人は、どうぞお願いします。沖縄に住む多くの人々はそうは参りません。全国で失業率が最も高く、所得が最も低い沖縄では職があるだけまだ幸いなのです。ボクは、沖縄の社会福祉現場で多くの学びをしました。沖縄に、当然、長い歴史と人々の営みがあるのです。そこと無縁の沖縄の闘争はありえないのです。1609年の薩摩による琉球侵略、1979年の琉球処分、その延長に沖縄戦と米軍基地があり、63年経っても米軍基地はなくなればかりか、現在の沖縄はその米軍基地の存在を容認する首長・議員が圧倒的多数を占めているのです。だから、沖縄に来て基地建設を止めてやるなどとは思えないほうがいいと思います。せいぜい、沖縄をあらゆる角度から見る、知ること、伝えることをやっていただければいいのです。この通信の役割があるとすれば、その時々沖縄やらそこに住んでいるの者の出来事をお伝えすることかもしれません。

では、また。

(沖縄 与那原 愛の園 後藤 聡)

大切な贈り物・津門川 69

“第11回津門川塾に参加して”

5月10日に行なわれた第11回津門川塾に参加させていただきました。

初めて参加したのが去年の6月の第9回津門川塾だったのでちょうど1年たちます。その時の津門川塾に参加された方に、その後の津門川塾の案内も出し続けているのですが、お一人その案内を見て1年ぶりにお越しになった方がいました。その方は神戸の教会の教会員の方で今70歳くらいでしょうか、聖和の保育科を出て長いこと幼稚園で働いておられた方です。何と実習で西宮公同幼稚園に来られたとの事。懐かしそうに園庭を見ながらメダカの入った袋を持って帰られた（第9回は野生メダカについて学ぶ会で、神戸女学院のメダカを参加者に配布したのです）姿が印象的でした。その方に今回「ちょうど一年前ですね。」と声をかけると、「そうですね。あの時のメダカも元気ですよ」と嬉しいお返事。ささやかですが、津門川を通して与えられた出会いに感謝しました。

第11回津門川塾はにしきた商店街会長の矢田貝さんの報告から始まりました。その報告で初めて津門川塾の前提に津門川の川掃除があったこと（考えたらもっともですが）を知ったのですが、その発端を聞いてなるほどと思いました。1998年から始まった川掃除は、元は“にしきた川祭り”という、

市長を招いて鯉の放流などを行なうイベントのために行なった掃除がきっかけだったそうです。それが定期的に行なわれるようになり現在に至るとい、地域の方々の理解と協力がなければ決して継続し得ないこの働きに、改めて関心を抱きました。何故みなさんが川掃除に参加するのか、何故川をきれいにしたいと思うのか、と純粹に疑問を抱いたのです。その答えは森栗先生の発言にありました。

「みんな自分の街だと思っているんです。」

自分の街だから、きれいにしたい。きれいにするために自分も活動に参加したい、そういうわけなのです。とは言え川掃除の必要があるということはそれだけ川が汚されているということで、根本的な問題を解決すべく努力をしなければならぬのは確かです。どれだけゴミを拾っても次の日には上流からゴミが流れてきているのです。川を眺めながら歩いていて、カモやサギ、亀などあんまり見られない生き物を見つけると嬉しくなると同時に、その横に洗剤の泡が漂っているのを見たりしてがっかりすることがあります。そういうとき人間としての罪悪感すら感じてしまいます。にしきたを「自分の街」だと思えば絶対にゴミや洗剤を川に流したりすることはないと思うのですが。。

津門川のことを学ぶ会として始まった津門川塾ですが、今回のテーマは「『いのち』を共に生きる」であり、広い意味で街づくりとも関係しています。2007年7月に「にしきた街づくり協議会」が生まれ、現在では津門川沿いに遊歩道を作ったり、駅周辺の地下に駐輪場を作るなど、津門川を含めた街づくりの計画が展開されていることが、報告されました。3月30日に行なわれた「第1回にしきた街づくりフォーラム」では、老若男女が集って踊り、遊び、楽しむ時間を持ちましたが、中でも特に盛り上がったのが参加者90名あまり全員が輪になって一緒に踊った“津門川音頭”でした。「第1回にしきた街づくりフォーラム」の事前勉強会の報告をまとめたブックレットの題名は「川・ひと・街」。これ

も一言でにしきたとそれにつながる様々な働き、その集う人々の存在を表しています。

助言者の古武家さんが“親水”という言葉を使っていたのが印象的でした。街中に住んでいると雨と水道から出た水以外の水に触れる機会は中々ありません。けれど命が海の中から生まれたという歴史、半分以上が水分でできていて、水なしでは生きられない人間という存在について思う時、その中に生命を抱いた水との出会いはとても貴重で大切です。“水に親しむ”事は、その意味を考えると簡単なようで難しいのです。街づくりのために働いてくださっている方々に心から感謝しつつ、“私たちの街”にしきたが人と水との出会いの一端を担っていくことができたらと願っています。

(大平 有紀)

川そうじのご案内

毎月第1日曜日（雨天の場合は翌週の日曜日）に津門川の川そうじを行なっています。

参加する方は午後12時過ぎに幼稚園園庭に集まり、長靴をはいて川の中に入って掃除をするグループと、川沿いの道のゴミひろいをするグループに分かれて掃除を始めます。幼稚園前から南に下っていったあたりからスタートし、171号線にぶつかるまでが範囲です。掃除が終わったら幼稚園に戻り、簡単な昼食をみんなで食べて、川そうじスタンプカードのハンコを1個押して終了です。スタンプカードは、5つポイントがたまるとにしきた商店街で使える金券1000円と交換します。

次回の川そうじは6月1日です。

グアテマラだより

今回のおはなしは、ちょっと苦しい話かもしれません。

この国は宗教上、妊娠中絶は認められていません（離婚は認められています。非常に多いです）。刑法でも1～3年の禁固刑、その処置をした医師も資格剥奪と罰金、禁固刑に処されるとなっています（私が読んでみたところ、暴力による妊娠や治療上であっても禁固刑が科せられていました）。2年前、語学の先生とその事を話し合ったときには、「ヤミ」で処置をする医者はいいて、法外な値段を要求するのだということでした。彼女は日本では法的に認められる場合があるということに興味があり、また、ある意味、ここにも必要なことではないのかという意見を持っていました。

・・・そして、ごく身近なところで考えさせられることが起きました。ある女性が妊娠をしたといえます。彼女の夫は今アメリカにいます。誰の子かと問われて、乱暴されたというのです。しかも相手は知人です。ここで正直、私はやめたほうがいい、と思いました。彼女自身、望まないと言ったからです（私にとっては当然）。そこで、医師を探し、話をすることになりました。ところが、です。乱暴したとされる男性は合意だと言いました（これもある意味当然でしょう）。そして自分は無関係

と言いつち、彼女は「やや」怒りながらも、産むと言いきってしまったのです。。。それが、強さなのか何なのか、私にはわからなくなりました。実際は「怖いからイヤ」というのも大きな理由だったようです。日本ではどこか日常的に起きていることなのに、です。

中米、そしてグアテマラでの実態についての資料をみると、年間、約65,000件の中絶が行われているとわかりました（日本では33万件、妊娠総数に対して21.7%）。また、罪になるということで、ごく個人的な医療機関で処置を行い、その費用がなければ、民間療法師のもと、得体の知れない飲料を飲んだり、胎児を粉砕するために細い管を入れるという危険な方法が取られています。

その結果、「安全ではない」中絶による死亡や合併症での死亡が10%に達しています。妊産婦死亡率が日本では100万人に対して7.3件なのに、こちらでは150～240件にもなります。国連団体や民間組織では、「安全な」中絶へのアクセスを確保し、死亡率を引き下げようという活動に力を入れています。

現在、グアテマラでは母体の生命の危険な場合のみ、それは認められるようになったようです。グアテマラ、特

に都市部以外では若い少女の妊娠、無計画な出産が続いています。保健機関の指導が行われても、避妊に対する意識は低いままです。

もし、ここに母体保護法があり、「安全に」中絶できる機関があったとしても、彼女は産んだでしょうか？今、日本では中絶への意識がゆるい面があり、ここでは出産に対する意識がマヒしている気がします。同じ「命」への思いが、私の中で混乱しています。

・・・深くは掘り下げられてないのですが。よろしくお願いします。

(横山 佳代子)

聖書研究祈祷会

毎月第1、第3水曜日午後7時から、場所は西宮公会堂集会室です。6月は11日、25日になります。

聖書はキリスト教の神のことを、人の言葉で語ってみようとした試みです。

そんな試みで残された聖書の内容は、当然あれこれ難解だったり、神の前に立つことを拒む人というものに呆れ返ったり、生々しかったりしますが、“神の前に立つ一人として謙虚に生きる”ことと、その意味を、言葉を尽くして語ろうとします。じっくりと腰をすえて聖書を読むのが、西宮公会堂の聖書研究祈祷会です。

2008年5月 あんなこと こんなこと...

- ・ 5月 1日(木) 早天祈祷会は休会
- ・ 5月 7日(水) 幼稚園 母の会総会 中村朋子ミニコンサート
- ・ 5月 11日(日) 教会学校教師会
- ・ 5月 13日(火) ゆっくりと聖書を読んでみませんか
小磯良平記念美術館へ“小磯良平 聖書のさしえ展”を見に行く
- ・ 5月 13日(火) 女性の会 「小磯良平の話聞く会」講師：岩井健作先生
- ・ 5月 18日(日)～19日(月) 兵庫教区総会
- ・ 5月 20日(火) 幼稚園 nao-shin コンサート
- ・ 5月 25日(日)～26日(月) 沖縄教区総会

にしきた商店街...

- ・ 5月 4日(日) 津門川川掃除
- ・ 5月 9日(金) 西北活性化連絡協議会
- ・ 5月 10日(土) 第11回津門川塾
- ・ 5月 14日(水) にしきた商店街役員会
- ・ 5月 16日(金) にしきた街舞台実行委員会
- ・ 5月 19日(月) 西北街づくり協議会

アートガレーヂ

- ・ 毎週土曜日 15時～17時開室日
- ・ 5月 20日(火) 丹波野菜市

関西神学塾

- ・ 5月 9日(金) 午後7時～9時 桑原重夫 使徒行伝を読んでみよう(33)
- ・ 5月 16日(金) 午後7時～9時 勝村弘也 ヨブ記釈義(9)
- ・ 5月 23日(金) 午後7時～9時 田川建三 マルコ福音書註解(中)(49)
- ・ 5月 25日(日) 午後7時～9時 「岩井健作」の宣教学(57)
- ・ 6月 6日(金) 午後7時～9時 桑原重夫 使徒行伝を読んでみよう(34)
- ・ 6月 13日(金) 午後7時～9時 勝村弘也 ヨブ記釈義(10)
- ・ 6月 27日(金) 午後7時～9時 田川建三 マルコ福音書註解(中)(50)

教会学校から

《4月の活動報告》

4月6日(日)

高松公園で大なわ大会

4月13日(日)

サニーレタス、クレソンを食べよう!

4月20日(日)

切り絵を作って遊ぶ

4月27日(日)

映画鑑賞会

《5月の活動予定》

5月4日(日)

いちご摘み

5月11日(日)

お母さんと一緒に礼拝をする

小さなパーティで

“イチゴケーキを作って食べる”

5月18日(日)

英語落語のDVDを見る

5月25日(日)

積み木で遊ぶ

6月1日(日)

わが街クリーン大作戦

まいのなんでも案内

ドイツ語で5月は「Mai」。つまりワタクシ。というわけで5月は勝手に自分の月だということにしております。何だか爽やかすぎて一番好きな月というわけではないんですけど、最近爽やかというより暑いですね。こないだも、とある映画の撮影にエキストラとして参加したんですが、主演女優さんはその白肌を守るために超厳重装備でして、撮影の瞬間以外は常にスタッフさんがパラソルを差しかけておいででした。エキストラのわたくしたちなんて、彼女(達)の準備が整うまで晴れ渡った日差しの下、紫外線をさんさんと浴びながら40分も放置だったのに……。さすが女優さんだなあと思わされました。実際めっちゃくちゃ顔ちっちゃくて白くて細かったですしねー。

てわけで、来年公開の映画「鴨川ホルモー」にこっそり(一瞬?)写ってる予定です。原作の小説は評判は良いから気になってはいたんですけど、売れ筋本が余り好きではないので敬遠してたところ、友達からエキストラの誘いが来てあわてて読みました。万城目学『鴨川ホルモー』。ドラマ化されたこともあって『鹿男あをによし』の方が有名な、とも思うんですけど、あたしはデビュー作ってこともあって、『鴨川ホルモー』の方が好きです。本当はその続編(というか番

外編)の『ホルモー六景』に収録されている「鴨川(小)ホルモー」が好きなんですけど……って話はおいとして。紹介してみます。

「『鴨川ホルモー』てどういう話?」てよく聞かれるんですけど、正直困るんですね。「えっと、イケてない京大生が、ホルモーっていう、オニを戦わせる競技のサークルに入って、恋あり友情ありの青春劇……え?うん、オニっていうのは、選ばれた人にしか見えない、妖精というか式神っていうか、そんなもんなんだけど、そのサークルに入ると、1人100匹使えるようになるのね。あ、いやいや勿論作者の創作で、本当はそんな競技ないよ?で、京都内にそのホルモーサークルがある大学はあと3つあってね、ちゃんと大会みたいにして戦うの。うーん、メインは何だろ……いちおう恋愛要素はあるんだけど……あーもう、読んで!とりあえず読んで!」みたいな説明が精一杯と言いますか。一回読んだ感想は、思ったより癖がなくて素直な話だな、てことだったんですけど、説明するとなると難しい。でも決して読みにくい話だとか、内容が難しいわけじゃないんで、興味持った人は是非読んでみてください!

そしてこれを言うのはどうかと思ったのですが、やっぱり避けて通れないのが

京大ネタ。作者の万城目さんが京大卒でこともあって、舞台がめちゃくちゃローカル！森見登美彦の『太陽の塔』読んだときにも思ったんですけど、こんなに本当の地名とか店名とか出しちゃっていいの？てぐらいリアルなんですよ。要はワタクシの生活範囲なんですよ（笑）。ああ、この喫茶店使うよね、とか、その辺に下宿してるならチャリで何分ぐらいかー、とか、つい現実的すぎる読み方をしてしまいます。更に登場人物がまた。あー、こういう人いるよね・・・て頷いちゃう方々。下駄はいて通学、てそれはあたしのことか？みたいな。さすがにちょんまげはしませんけど、かんざしは挿すしなあ・・・。あ、あたしTシャツにジーパンにかんざしに下駄、ていう、和物を取り入れた格好が大好きなんです。下駄って言ったってそんな高い本格的なものじゃなくて、ユニクロで千円とかのを、ミュール感覚で。長めの丈のデニムでもひきずらないし、何となく背筋が伸びるし、これから流行するんじゃないかと思ってます。今年は更にかんざしというアイテムを入手したので、どんどん使っていく予定です。かんざしも使い方覚えれば本当便利ですしねー。ゴムもピンもなしでセミロングの髪がまとまるってなかなかないですよ！あ、話が脱線しました。

えー、まあそんな『鴨川ホルモー』撮

影も実際に京大でやってましたし、京都の学生の雰囲気を知りたい方は是非！映画前に本を読んでくと理解が深まる事間違いなし！ですよん。

（高橋 舞）

つとがわ 編集後記

4月27日から5月6日まで、あれこれ出たり入ったりの日を過ごしました。4月29日は“カレーパーティ”という集りがあって一日を過ごし、4月30日～5月1日は富山県氷見市の施設で世話になっている父を訪ねました。2日は孫と過ごし、5月5日は娘と六甲山を歩きました。ロープウェーで有馬まで降りる予定を変更して下山の道歩くことになりました。そうして歩くことになった紅谷のブナの新緑は本当にきれいでした。5月6日は海上自衛隊舞鶴教育隊にW君を送り届けてきました。少し時間があつた為、公開していた話題のイージス艦の前で記念撮影し、送っていった“お礼”に回転寿司をごちそうになって別れました。その後、大騒ぎになっている舞鶴のいくつかの場所も、その際に通過したりしています。

(K)

いつも家から駅まで自転車に乗っているんですが、歩いて帰った日がありました。自転車の鍵をなくしてしまったようなのです...仕方なく歩いて帰ったのですが～涼しくなった夜、静かな道をゆっくり歩くのもいいなあなんて思いながらのんびり帰りました。...でもやっぱり自転車に乗れないのは困ります(笑)...鍵を探さなくっちゃ～!

(N)

子どもたちと今年初めてのいちごつみに行きました。幼稚園の畑のいちごは、どこのどんないちごよりも甘くておいしいのです。苗を植えて、足を運んでみんなで見守ってきたいちご。そんないちごをつんだその場でいただける贅沢に感謝します。

(Y)

G.W.に部屋の片付けをしました。押し入れの中まで手を延ばすと、むかーしの手紙が出てきました。中学・高校の時に学校で友達とやりとりしてたのを読み出すと止まらなくなつて1日が終わりました。なんてことない内容だけど懐かしくてまた大切に元の場所に戻しました。...次に読むのは何年後でしょう。その時も思い出してプププと笑ってしまうんだろうなあ。

そして部屋の片付けは...エンドレスです(苦笑)

(I)

朝起きるのも、外へ出てちょっと庭の花いじりをするのもいやでない気候になりました。今朝はかまきりの卵も発見、少し気を許すと(許さなくても)、むかごのつるとどくだみとミントに席卷されてしまうので要注意ですが、まあ初夏の潤いに溢れているささやかな庭。道行く人にお礼の声をかけてもらい、地域ですっかり有名になるほど、昨夏大輪を咲かせ続けた超豪華なハイビスカス、1鉢は冬の寒さに負けましたが、あとは雪の多かったあの極寒に耐えて春を迎え、今ぐんぐんと緑を広げています。園庭や教会前のも寒さにもめげずに80パーセントは冬を乗り越えてくれたようです。毎日少しずつ小さな緑の葉を見つけては元気をもらっています。また夏の開花が楽しみです。

(J)